

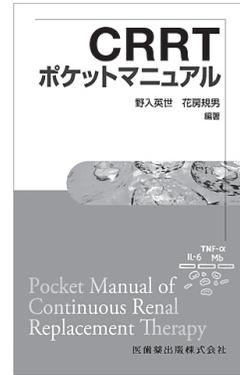
●書評

BOOK REVIEW

BR

『CRRT ポケットマニュアル』（野入英世・花房規男 編著）

●新書判, 256 頁 ●定価 2,940 円(2,800 円+税) ●医歯薬出版



東京大学医学部附属病院血液浄化療法部・野入英世先生と花房規男先生の編集で、『CRRT ポケットマニュアル』が出版された。持続的腎代替療法(CRRT: continuous renal replacement therapy)は、本邦の集中治療室でルーティンに施行されている技術であり、腎機能低下に伴う renal indication とサイトカイン除去を目的とする non-renal indication の2つの側面を持つ。現在、腎臓内科、呼吸器内科、循環器内科、そして救急科をはじめとする多くの診療科で、急性期全身管理の一貫としてCRRTが利用されている。本書は、このCRRTの管理における明確な指針を提示してくれる。

本書は、大きく総論と各論より構成されている。総論では、CRRT に対して、すぐに治療開始とするために、医療用器材、トラブルシューティング、よりよい理解のために、という内容が展開されている。各論では、CRRT の具体的適応として、急性腎傷害、循環器疾患、敗血症/高サイトカイン血症、多臓器不全、急性肝不全・劇症肝炎、急性膵炎、急性肺傷害、周術期管理、頭蓋内疾患、代謝障害、急性薬物中毒、小児・乳児について、的確にまとめられており、最終章として水分バランス管理、栄養、薬剤血中濃度への影響、今後の大規模臨床研究の方向性が提示されている。

このような大量な情報をコンパクトにまとめている本書において、総論は極めて充実している。「すぐに治療開始とするために」では、renal indication と non-renal indication についてまとめられている。CRRT のモード、すなわち CHD(continuous hemodialysis)、CHF(continuous hemofiltration)、そして CHDF(continuous hemodiafiltration)について、除去目的の溶質の分子量もまとめ

られている。「医療用器材」では CRRT における補充液・透析液について、ヘモフィルタについて膜の材質などについても十分に記載されており、血管内留置カテーテル、そして抗凝固薬の選択、さらに安全管理のためのモニタリング、血圧低下、出血、電解質異常などのトラブルシューティングについてもまとめられている。「よりよい理解のために」として、CRRT の原理、補液量、透析液流量の決定法、CRRT から間欠的透析療法への移行タイミングなどが記載されている。これらは、透析室のみならず、急性期医療を集中治療室で行う医療者にも、疑いなく、深い理解を与えてくれる。

以上の総論を週末に一読し、各論を診療の際に熟読し、さらに総論に立ち返るとよい。私は、この本文 240 ページからなる『CRRT ポケットマニュアル』を、夏休休暇中に読ませて頂いた。しかし、本書には、たくさんの細かな数字や表などが記載されている。毎日の臨床の実践で、表やデータを自らで咀嚼することが大切であろう。その上で、CRRT の領域における臨床研究、基礎研究のモチーフを育てたい。各項のおわりには、研究モチーフを書き留めるために最適な MEMO 欄が設けている。初学者の皆さんから CRRT に慣れ親しんだ皆さんまで、医師からコメディカルの皆さんにまで、ポケットサイズの本書により、より一層に CRRT の世界を身近なものとしていただけるはずである。

本書の御一読を、お薦めしたい。

(名古屋大学大学院医学系研究科救急・
集中治療医学分野、松田直之/まつだなおゆき)